

開校 53 周年

# あけぼの 曙

『自立・共生・創造』

進んで考える生徒  
進んで話し合う生徒  
進んで実行する生徒

札幌市立真駒内曙中学校  
2026年3月13日発行  
第8号

## 第53回卒業証書授与式

本日3月13日、真駒内曙中学校令和7年度第53回卒業証書授与式が挙行されました。3年間をこの学び舎で過ごし、いよいよ巣立つ時がやってきました。皆さんの前途が幸多いものなることを祈ります。

## 校長式辞

寒さが和らぎ、春の訪れを間近に感じるようになりました。厳しい冬にじっと耐えてきたグラウンドのハルニレの木は、これまで三百年以上繰り返してきたように、今年もまた新たな芽吹きを準備し、本校の卒業生を見守っています。

本日、この佳き日に真駒内曙中学校第五十三回卒業証書授与式を卒業生、御来賓、保護者の皆様とともに迎えられたことはこの上ない喜びです。御多用中にもかかわらず、御臨席賜りました御来賓の皆様には厚く御礼申し上げます。

ただいま、七十九名の卒業生一人一人に卒業証書を授与いたしました。卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。卒業証書は、皆さんの中学校三年間の努力の結晶であり、御家族の愛情の結晶でもあります。ぜひ、御家族への感謝を忘れないでください。

人生で最も多感な心をもち、体も大きく成長する三年間をこの真駒内曙中学校で過ごし、いよいよ巣立つ日がやってきました。今、振り返ると、コロナ禍の中、まだまだ大きな不安を抱きながらの入学だったと思います。

検温や手洗いの励行、歌は歌えず、給食の黙食など、様々な制限・制約がある中で、マスク着用の入学式を迎え、中学校生活がスタートしました。その後、コロナウイルス感染症も五類となり、制限も少しずつ緩和されてきましたが、まだまだ、厳しい状況の中で皆さんは、たくましく、困難な状況にもめげず、創意工夫を凝らし、様々な活動に取り組んできました。その挑戦と努力が実を結び、今の中学校の生活スタイルを確立してきました。同時に学校全体にも活気を取り戻してくれました。

今思い出すと、卒業生のたくさんの顔が浮かんできます。生徒会入会式で新入生に見せる「穏やかな顔」。部活動の大舞台に臨む「気迫のこもった顔」。修学旅行での「楽しそうな顔」。曙文化祭でやり切った「充実の顔」。

表情だけではありません。背中で手本を示す先輩を目指して、集会や行事では、より姿勢と態度で後輩に背中語りかけることができていました。どれも「努力することがかっこいい」を象徴する素敵な表情や姿でした。本当によく頑張りました。ありがとうございます。私は、そんな皆さんを誇りに思っています。

さて、皆さんは、「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る。」という言葉聞いたことがあるでしょうか。これは、小説家の井上 靖さんの言葉です。

彼のこの言葉から、努力と希望、怠惰と不満は表裏一体であると考えていたことがわかります。人はついつい物事的不满にばかり目を奪われ、楽な方へ楽な方へと怠けてしまいがちです。しかし、みなさんは、努力している人が輝いて見えたという経験はありませんか。きっとその輝きは、不満に目を向けているのではなく、希望をもって前へ前へと一生懸命、物事に取り組んでいる姿勢から生まれているのだと思います。勉強、部活動、趣味。何事に対しても不満ではなく、希望に意識を向けられれば、きっといい方向に進んでいくはずですよ。

つまり、私たちに必要なのは、「希望に目を向ける」という意識なのです。私たちは意識的に希望に目を向けていく「努力」が必要です。卒業生の皆さんには、ぜひ「希望を語る人」であってほしいと強く願っています。

また、皆さんは、授業や講演会、諸活動の中で「一人一人の違いを認める思いやり、他者への共感、多様性の尊重、国際的な視野をもって平和に貢献すること」などの大切さを学んできました。過去にない深刻な問題が拡大しつつある、予想のつかない未来の中でも、本校で学んだことを生かし、世界中の仲間と手を取り合って「持続可能な社会の構築」に向けて努力してください。変化の激しい時代を生き抜く「強さ」と、安心・安全な社会を築く「優しさ」、そしてこれからの時代を支えるのは自分たちだという強い「志」をもって、それぞれの場所で活躍してください。心より応援しています。

結びになりますが、保護者の皆様には、今日のお子様の姿を目にされ、それぞれに幼いころからの様々なこと、中学入学後の出来事など、十五年間のたくさんのことが思いだされ、感慨もひとしおのことと思います。本日ここにお子様が卒業式を迎えられましたこと、心より喜び申し上げます。入学よりお子さまを温かく見守っていただき、本校にお寄せいただいた温かい御支援、御協力に対しまして心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。教職員を代表して御礼申し上げます。

大空へ羽ばたこうとする鳥は、大きく翼を広げて、「空高く舞い上がろうとする力」を最大限に得ようとします。皆さんにとっての翼は、一人一人が持っている自分の「夢」であり、「希望」に他なりません。『夢を語る人であれ』『希望をもち続ける人であれ』。

皆さんの前途に拓ける『夢ある未来』に期待と思いを馳せ、私の式辞とします。

令和8年3月13日  
札幌市立真駒内曙中学校長

# PTA 会長の言葉

卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様におかれましてはお子さまが立派に成長され、今日の日を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

そして、子どもたちが無事真駒内曙中学校を巣立ち、羽ばたいていく今日の良き日を迎えられたことは、校長先生をはじめ教職員の皆さまの深い愛情と情熱あふれるご指導のおかげと心より感謝申し上げます。

また、日頃から温かく見守ってくださっている地域の皆さまにも多数ご臨席賜り、共にお祝いいただきますこと誠にありがとうございます。PTA を代表いたしまして心よりお礼申し上げます。

皆さんが3年生として最大のイベントの曙文化祭を大成功に終わったことは、たくさんの努力や工夫、チャレンジ精神、そして仲間たちとの固い絆の成果です。これからの時代にたくましく生き抜いていく大きな知恵と原動力になると思います。

たくさんの思い出を胸に卒業式を迎えられ、皆さんは輝かしい未来への夢と希望に心を躍らせていることと思います。

これからは中学校生活の中で見つけた知識や経験を糧に新たな目標に向かって一步一步進んでいってください。時には、思い通りに進まないこともあると思います。そんな時には、多くの仲間がいること、大切な家族、お世話になった先生方、地域の人たちがいること、皆さんの支えになってくれるたくさんの人のことを思い出してください。

保護者を代表して、親の立場から少しだけお話をさせていただきます。親というものは自分の苦しみや痛みには強くいられるものですが、わが子に降りかかる悲しみや苦しみには、どうしても胸が締めつけられる思いになります。

だからこそ皆さんのことを思うあまり、ときには厳しい言葉をかけてしまうこともあったかもしれません。けれども、ほんの少しでかまいません。親の言葉を心のどこかに覚えておいてください。皆さんが社会人となり独立し、家庭を持ち親になったとき、その意味が分かる日がきっと来ると思います。どうか時々思い出してください。

お母さんは、皆さんの幸せを一番に考えています。お父さんも、皆さんの未来のために毎日頑張っています。皆さんが元気でいてくれること、それだけで親は幸せなんです。

改めて、ご家族の皆さまにお祝い申し上げます。中学校生活3年間だけではなく義務教育である9年間の子育てという大業を終え、今日の卒業式を迎えられました事を心からお祝い申し上げます。

子どもたちは、また新たなステージが始まります。これからも親として心配事や戸惑うこともたくさんあると思いますが、子どもはだんだんと親の手を離れ大人に近づいているので、これまで以上に信じ、寄り添い、見守って参りましょう。

子どもたちの健やかな成長とみなさまのご健康、ご活躍をお祈りいたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

令和8年3月13日  
真駒内曙中学校保護者と教師の会 会長

## 在校生送辞

冬の厳しい寒さが和らぎ、この真駒内曙中学校の校庭にも、どこか懐かしい春の匂いが感じられる季節となりました。短くもあり、長くも感じられた三年間を終え、本日新たな生活へと歩み始める卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同を代表し、心よりお祝い申し上げます。先輩方にとって、この3年間はどのような時間だったでしょうか。歩んできた道のりを振り返ると、積み重ねてきた時間の中に数々の思い出があったのではないのでしょうか。僕も改めて振り返ると先輩方と過ごした日々は僕たちにとってかけがえのないものであり、その1つ1つが今の僕を支えてくれている大切な思い出です。

学校行事では、全校の中心となって僕達を導いてくださり、先輩方の存在の大きさを感じました。特に文化祭では先輩方の作った装飾を見て玄関に入った瞬間、文化祭が始まったとワクワクしました。またステージ発表では圧巻の演技と、細かい装飾品、そして音響照明との見事な連携、そしてその素晴らしいパフォーマンスに圧倒されました。そして締めを飾ったフィナーレでは、キレイのダンスで全校生徒を魅了していました。すべての部門が他学年とは一味違う、素晴らしい作品に仕上がっており、さらに最前列の先輩方の明るく楽しそうな姿は会場全体を盛り上げてくれていました。また合唱発表会では、多くの人が自主的に放課後の練習に参加している姿を見ていました。本番の発表では、2クラスという少ない人数にもかかわらず、どの学年よりも情熱的で、声に込められた思いが強く伝わってきました。美しいピアノの音色と思いの詰まった歌声に思わず涙を浮かべそうになるほど、感動しました。来年度は僕たちが、後輩を感動させられるような合唱を届けられるよう頑張ります。

学校行事以外にも特に、生徒会活動では、お世話になりました。初めての全協では、的確で丁寧な指示と場に入りやすい雰囲気をつくってくださりました。間違えてしまったときも、優しく励ましてくださったことがとっても嬉しかったです。ハロスマなどの新しいことにも積極的に挑戦していく先輩方の姿は、僕の憧れです。あの頃の先輩方のように、今度は僕たちが後輩の憧れとなれるよう、これからも努力してまいります。

こうして思い出を振り返ると、いつも頼もしかった憧れの先輩方が卒業すること、実感がいまだに湧きません。先輩方との思い出はまだありますが、先輩方はいつまでも僕たちの憧れであり、目標です。先輩方が教えてくださったことを一つ一

つ思い出し、来年度からの先輩方がいない真駒内曙中学校でも支えていけるよう、新たな一步を踏み出していこうと思います。

そして卒業生の皆様がこれから歩まれる道は、決して平坦なものばかりではないと思います。迷いや不安に包まれることもあるでしょう。けれども、そんなときこの学び舎で仲間と共に悩み、笑い、支え合ってきた日々を思い出してみてください。これまでの苦難を乗り越えてきた先輩方ならどんなことでも乗り越えることができると信じています。

最後になりますが、これまで真駒内曙中学校を支えてくださり本当にありがとうございました。先輩方と過ごした日々は、これから先もずっと僕たちの心の中で輝き続けると 생각합니다。これからの先輩方の進む道が曙のような希望に満ちあふれた輝かしいものであることを、在校生一同心よりお祈り申し上げ、送辞とさせていただきます。

令和8年3月13日 在校生代表

## 卒業生答辞

中学校生活との別れを惜しむように季節外れの雪が降りましたが、日に日に長くなる日の長さは、春が確実に近づいていると感じさせます。今日という良き日に、皆様に見守られながら卒業の日を迎えられることを、大変嬉しく思います。私たちのために、このような素晴らしい式を開いてくださり、本当にありがとうございました。卒業生を代表し、心より感謝申し上げます。

私たち第53期生は、校庭のハルニレの木に見守られながら、この真駒内曙中学校を卒業します。今、卒業証書を手にした皆さんは、どのような思いでこの日を迎えているでしょうか。私たちが入学した頃は、コロナ禍も少しずつ落ち着き、学校生活が少しずつ元に戻り始めた時期でした。

入学式では、多くの生徒がまだマスクをつけており、お互いの表情も見えない中で、新しい環境に少し緊張していました。周りを見ると、同じように緊張している仲間たちが並んでおり、自分と同じ思いを抱えているのだと感じ、少し安心したことを今でも覚えています。学校生活が始まると、定期テストがあること、年上の先輩には敬語を使うこと、昼休みが二十分もあることなど、今では当たり前を感じる一つ一つのことが、当時の私たちにとっては驚きで新鮮なものでした。また、学校行事を通して、私たちは仲間との絆をより深めることができました。

1年生の文化祭では、先輩方の素晴らしい装飾や発表に引き込まれ、中学校の文化祭の迫力に驚き、感動しました。2、3年生では宿泊学習や見学旅行がありました。友達と同じ部屋で夜遅くまで笑い合ったこと、東北の歴史ある建物を見て学んだことなど、どれも忘れられない思い出です。仲間と過ごす時間の大切さを改めて感じ、さらに絆を深めることができました。そして迎えた最後の文化祭。準備の段階では、意見がぶつかることもたくさんありました。しかしそれは、みんなが「絶対に成功させたい」という強い思いを持つ

ていたからです。本番では、これまでの努力の成果を発揮し、最高の発表を披露することができました。あの時の達成感と感動は、きっとこれからも忘れることはないでしょう。このような経験を通して、私たちは多くの思い出をつくることができました。

在校生の皆さん。これまで私たちを支えてくれてありがとうございました。皆さんと過ごした学校生活は、私たちにとって大切な思い出です。これからの学校を作っていくのは在校生のみなさんです。皆さんの力でさらに素晴らしい学校にしていってください。

また、3年間私たちを支えてくださった先生方に、心から感謝申し上げます。授業や部活動でのご指導はもちろん、悩んだときや迷ったときには親身に相談に乗り、励ましてくださいました。先生方のおかげで、私たちは安心して学校生活を送り、さまざまなことに挑戦することができました。本当にありがとうございました。

そして、お母さん、お父さん、いつも本当にありがとうございました。私たちが頑張ったことやうれしいことを、自分のことのように喜んでくれるおかげで、毎日を前向きに過ごすことができました。私たちの成長を心から喜んでくれるお母さんとお父さんに、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、私たちを見守っててください。

最後に、3年生のみんなへ。これからそれぞれの道を歩んでいく中で、つらいことや大変なこともあるかもしれませんが、しかし、ここで共に過ごした仲間との思い出は、きっと私たちの力になるはずです。

「同じ空の下 どこかで僕たちは いつも繋がっている」たとえこれから別々の道を歩んでも、この仲間との絆は変わることなく、私たちの心の支えであり続けるでしょう。私は、この学校で、この学年で、みんなと一緒に過ごすことができて本当に良かったです。

結びになりますが、これまで支えてくださったすべての方々に改めて感謝申し上げるとともに、真駒内曙中学校のますますのご発展を祈念し、卒業生代表の答辞とさせていただきます。

令和8年3月13日  
第53期卒業生代表

